

現地を訪問して想うこと

西 のどか (2010・国際)

「早く現地に行って自分の目で見て来なければ」、——そんな思いのまま三年が経ちました。

最初、このツアーの案内を頂いた時、「これだ!」と思った反面、「今頃行ってももう遅いのでは」という気持ちも少しありました。

ですが今回、遠野、釜石、大槌町、陸前高田市の地を実際に踏み、現状を見せて頂いたことで、「もう遅い」の気持ちは一切なくなりました。

各地で目にしたプレハブ、さら地、工事中車両、遺構、そして何よりそこで生活する人々の言葉、その全てが私たちにまだまだこれからできること、やるべきことがあるのだと教えてくれました。

中でも、校友会の鈴木さんの体験談や、語り部さんから伺った被災からこれまでの歩みは本当に印象深かったです。

その間大変なご苦勞をされたにも拘らず、「貴重な(震災からの)一ヶ月半だった」と仰った鈴木さんの言葉や、亡くなったご友人方が、「もう二度とこんなことにならないようにきちんと語り継いで行って欲しい」と言っているような気がするから辛くてもこの仕事をしている、と仰った語り部さんの言葉。

「前の震災の経験が何も活かされていなかった」という悔しげな声が、今でも耳に強く残っています。

今、あの東日本大震災を、どう自分たちの中に残していくのか、と問われたような気がしました。

あの場所に立って見て聞いて感じたこと、伝えたいことは、言葉ではどうしても表現しきれません。

もし未だ現地に赴かれていない方で、このレポートを見てくださった方がいらっしゃったら、どうか是非一度あなたの目と足で確かめてきて欲しいと思います。

今回のこのツアーの中で教えて頂いたことを、私は一生忘れません。

参加させて頂けたご縁と幸運と母校に、そしてお世話になった皆様と岩手の土地に心から感謝しています。

私は、これから来たるであろう南海トラフの被害が直撃する地域に住んでいます。

自分に出来ることを必ずやります。絶対に風化させません。本当にありがとうございます。